

令和2年度天皇杯受賞者受賞理由概要
水産部門

大野あさり「100年の漁場管理、その一歩先へ」

○氏名又は名称 前潟干潟研究会（代表 下戸成 治美）

○所在地 広島県廿日市市

○出品財 技術・ほ場（資源管理・資源増殖）

○受賞理由

・地域の概要

廿日市市は、広島県西部に位置する。同市は、厳島（通称：宮島）を擁しており、その厳島との間には大野瀬戸と呼ばれる水路状の海域がある。この海域は、豊かな森林地帯からの河川水・伏流水が流入することで餌となる植物プランクトンの量が安定しており、優良な漁場として日本を代表するカキ類やあさりの産地となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

前潟干潟研究会は、平成25年に市内大野地区の浜毛保漁業協同組合、大野町漁業協同組合、大野漁業協同組合の3漁協の有志が集まり結成された。令和2年現在、研究会には漁業代表者37人が在籍し、活動計画の立案などの中核業務を担っている。

・受賞者の特色

（1）資源管理の必要性和地場産稚貝の確保

大野あさは古くから各個人に割り当てられた区割り漁場での生産が行われるなど、資源管理の取り組みが熱心に続けられており、近年では食害防止の観点から網掛け保護が行われ、資源保護に対する意識の向上が見られている。また、地場産稚貝の確保も熱心に行われており、稚貝を表砂ごとに網袋で採苗する手法を開発し、稚貝回収量も増大した。これらの取り組みは、広島県や研究機関等における研究成果を実地で応用しているものであり、資源の回復、干潟の保全に寄与している。

（2）「地理的表示（GI：Geographical Indication）保護制度」への登録

区割り漁場や手堀り収穫などの生産方式と大野あさりの品質が評価され、令和元年12月にGI保護制度の登録を受けた。この登録を通じてあさりの大きさの定義を明確にし、より高度な資源管理と付加価値形成を行う基盤が強化された。

・普及性と今後の発展方向

漁業就業者の高齢化が進む中で資源管理の重要性は増しており、過度な負担にならず取り組みやすい簡易な採苗手法を開発した意義は大きい。無理なく自然と地域に寄り添う資源管理のあり方を提示した本出品財の取り組みは、他地域にも多くの示唆を与えるものである。また、GI保護制度の登録などにより、地域活性化にも貢献している。